

## 「丸之内に春陽会が洋画研究所開始」

## 初心者への為に夜間部もある

ビジネスの戦場のやうな丸之内に、これはまた風変りな色彩を盛つた殿堂——それは幸ビル四階にある春陽会洋画研究所である。春陽会は既に知る洋画界の中堅、足立源一郎、石井鶴三、林倭衛、木村莊八、小杉未醒、森田恒友、山本鼎、諸氏その他錚々たる画家が一同をなしてゐる会である。此の内幸町幸ビルに研究所を設けたのは昨年九月であつたが、研究所としての活動は美術愛好者に洋画の善き理解を与へ、共に実技の教習を行ふことにその使命がある。教習に就いては午前、午後、夜間と三部制になつてゐるが、夜間の講習部を紹介すると、毎日午後六時半から九時までにて、大体第八週(約二ヶ月間)まであつて、第一週は石膏のデッサンから始まり、週を追ふに従つて静物の彩画、クロッキー、人体彩画と、美術の専門学校に学ぶと同様に毎週春陽会会員の指導を得ることになつてゐるから、洋画を学び、研究者等には持つて来いの研究所である。初心者等も此の夜の講習部には多く、安易にさうして短日月に大体の骨組みを把握出来ることになつてゐる。だから洋画入門としては全く好適處であると同時に、来る二月十日から第二期の志望者を入学させることになつてゐるそうであるから、希望者は通知次第規定書を送付する由。因みに研究生と春陽会会員の茶談会を隔月に開き、課外作品の講評等を行ふ外、作品の競技会を催す

ことになつてゐる。現在は男女合せて研究生は百余名に達してゐる。

『丸之内新聞』 昭和五年一月二十五日